

[人権参観授業内容]

人権参観 各学年の授業内容

	教材・資料	学習内容 (身に付けたい力)	授業のめあて
1年	となりのためぎ	① ②	うさぎとためぎはお互いに仲が悪く相手のことを嫌っています。うさぎはお月さまに相談して、ためぎをやっつけようとするお話です。決めつけや思い込みで友だちを判断するのではなく、相手に寄り添うことで誤りに気づき、友だちと仲良くしようとする気持ちを育てていきたいと思っています。
2年	ええところ	① ②	あいちゃんは「自分にええところがない」となげやりな気持ちや悲しい気持ちでいます。しかし、友達のももちゃんによいところを見つけてもらうことにより、心から笑顔になり、ももちゃんのことを大切な存在だと気付いていきます。学習を進めていく中で、自分自身や友達を理解し認め合うことが、大切なことだと気づいてほしいと思います。
3年	島ひきおに	② ⑤	「島ひきおに」に登場する鬼は、心の優しい鬼でしたが、いつも一人ぼっち。一緒に遊びたくて、村びとたちに近づこうとしますが、村人は嘘をついたりごまかしたり、最後まで仲間に入れようとはしませんでした。鬼と村人の双方の思いを考えながら、外見や先入観で判断することの誤りに気付く。
4年	仲間はずし	① ⑤ ⑥	友達から、ある人と口をきかないように言われたメグミさん。この、ある人の事を心配して、何とかしてあげたいと思いながら悩んでいます。あなたがメグミさんだったらどうするか、その理由を考えたり、何と言って友達に自分の気持ちを伝えるのかを考えたりして、グループで意見をまとめ、全体で交流することで、何もできないままではなく、何か自分にもできることがあることを学んでほしい。
5年	世界がもし100人の村だったら	② ⑤ ⑦	世界には70億人もの方がいます。それを100人に縮めてみたらどうでしょう？この教材では「世界の貧富の格差を構造的にとらえること」と「多様性の尊重」という側面から100人村をとらえ、教材化しました。持続可能な社会に向けた格差解消について考えるきっかけとなればと思っています。
6年	コミュニケーションのすれちがい	② ③ ⑤	いくつかの手掛かりをヒントに、絵を描かせます。限られた情報の中では、必ずしも物事が正確に伝わらないことを知り、その裏には勝手な思い込みや、偏った判断基準が存在することに気付かせたい。コミュニケーションのすれちがいを体験することで、正確な情報の送受信のために必要な要素を考えさせたいです。

【学習内容】身に付けたい力

- ① 自分が生きる価値の実感（いろいろな人間の違いを自覚し尊重しあう）
- ② いろいろな違いの自覚と尊重（いろいろな人間の違いを自覚し尊重しあう）
- ③ 差別や人権侵害につながりやすい違いの認識（「差別につながりやすい違い」を認識する）
- ④ 差別の歴史・社会的背景の学習
- ⑤ 差別を見抜くための共通概念に関する学習（自分の経験に照らしつつ共通概念を取得する。）
- ⑥ 目の前で起こった差別的言動に対する行動力の育成（身のまわりで起こった差別的言動に対する行動力を育む）
- ⑦ 社会に働きかけるための集団的・組織的な行動力の育成